

生徒による授業評価に対する
各教科、学年における集計結果の分析と改善点等のまとめについて
平成29年度

教科名・学年	集計結果の分析と改善点等のまとめ
国語	教科担当者が綿密に打ち合わせを行って、生徒の理解度、授業進度に応じた適切な質と量の課題、宿題を課すことで、意欲的に取り組めるように指導を改善していく。
地歴・公民	科会で各学年の様子や授業内容の情報共有を図り、教材や単元の精査・授業方法について検討する。課題や小テスト、提出物の評価を確実にを行い生徒にフィードバックする。また、単元ごとの復習プリントを配付し 応用にもつなげられるようにする。
数学	1年次に習熟度別授業を行い、2,3年次には生徒の能力・適性に合わせ、文理・進路別講座で授業を行っている。生徒の学力に応じた授業や課題の難易度を工夫することで、数学に興味関心を持ち、意欲的に取り組むよう指導していく。
理科	自然に対して、神秘さ・不思議さ・すごさ等の感動を与えるような取組をし、科学に関心を持って疑問を持つような態度を養成していきたい。
保健体育	生徒の学習意欲が育つよう、教員同士の切磋琢磨の中で研鑽を深めていく。生徒自ら考え行動ができ、より良い人間関係構築ができるよう手助けをする。
芸術	課題の与え方や授業の進め方をさらに工夫し、教師側の熱意が伝わるよう心がけたい。
英語	英語検定や GTEC などの外部試験を利用しながら、生徒につけたい 4 技能における力を確認し、教科内において進度や教材等の情報共有を図り、授業の改善に取り組む。引き続き課題や小テストを実施することで、基礎基本の定着を図りながらモチベーションを維持させ、授業や家庭学習に積極的に取り組むよう指導していく。
家庭	家庭生活の中でも、与えてもらっているだけの生活をし、更にスマホ等の仮想体験と混同し、何でもできると錯覚している生徒が多くなってきていると感じている。できるだけ、現物を見たり、触れたりする体験を多く取り入れる工夫をする。
情報	世の中にあふれる情報をどのように取り入れどのように活用するか。また、どのように情報を伝えれば相手に届くのかを念頭に適切なスキルを身につけられる授業にしていきたい。
1 学年	生活面と学習面での凡事徹底 (ドリル・課題・提出物等、表面的なものでなく内面や内容の充実をはかっていきたい)。
2 学年	家庭学習時間を増やし、より一層の学力向上につながるよう努めたい。
3 学年	授業内容の充実を図り、補習授業や面談指導とあわせて、生徒の進路の実現に結びつけていきたい。